

小原の楽しみ方



小原荘

小原の生活
が楽しめるよ



小原の景色
みんなに見せたい



体験学習コーナー

小原の文化
が学べるよ!



小原定食

笹すし
天ぷら
みそ汁
お茶



分枝町
V. 生芝
一本栴

春
お花見
お茶会



石垣に
生える
秋摘みの
お茶



砂岩の自然石をその特徴・石の階級
傾斜地に生かす知恵



小原の川

水がすきとお
ついできれいな
川だよ!



「小原おいで祭り」

なぜ 年間5~6千の登山客がいる。
この人たちに村をアピールし、村を
元気にする。

なにを 山菜 ゆさび → あたかごはんのせおなげ
食べ物の
アピール うど、タラのメ、いたけ、もろこし
笹ずし、山菜天ぷら

だれが 小原の人たち(出身者も)
協会プロジェクトのメンバー
一般ボランティア

いつ 6月、紅葉の時期の日曜日
(新緑) ↓

どこで 集落の広場 一軒うちを開放

どのように ティー、3じ毫

予算

参加人数目標 ⁴⁰⁰300名 $\times 1000$ 円
申込400円

1. 告知費(チラシ代) ³5万円

2. まわりの旗
(50本) 10万円

3. 仮設テント(5基) 0円

4. 食材 10万円

5. 仮設トイレ(3基) 6万円

6. 仮設テーブル 0円

7. 食器 1万円

8. 準備備費 ²材料始末 5万円

9. 看板 5万円

10. 予備費 38万円

1回予算合計 40万円 ~~50万円~~

ようきてくらった! 小原開山祭

※ 開山祭プログラム

1. 日時: 毎年6月第3日曜日

2. 祭次第:

- ① 安全祈願式 (仏式もしくは神式)
- ② 歓迎のあいさつ (小原地区代表)
- ③ テープカット

3.  並催行事:

- ① 山菜販売
 - ② 小原特産品販売
- その他販売可能な物品

4. 予算: 5万円



※ 年間行事

- ① ニッコウキスゲ祭り (7月第一日曜日)
- ② 中秋の名月観月会
- ③ 紅葉まつり
- ④ 開山祭 および報恩講
(希望者のみ有料)

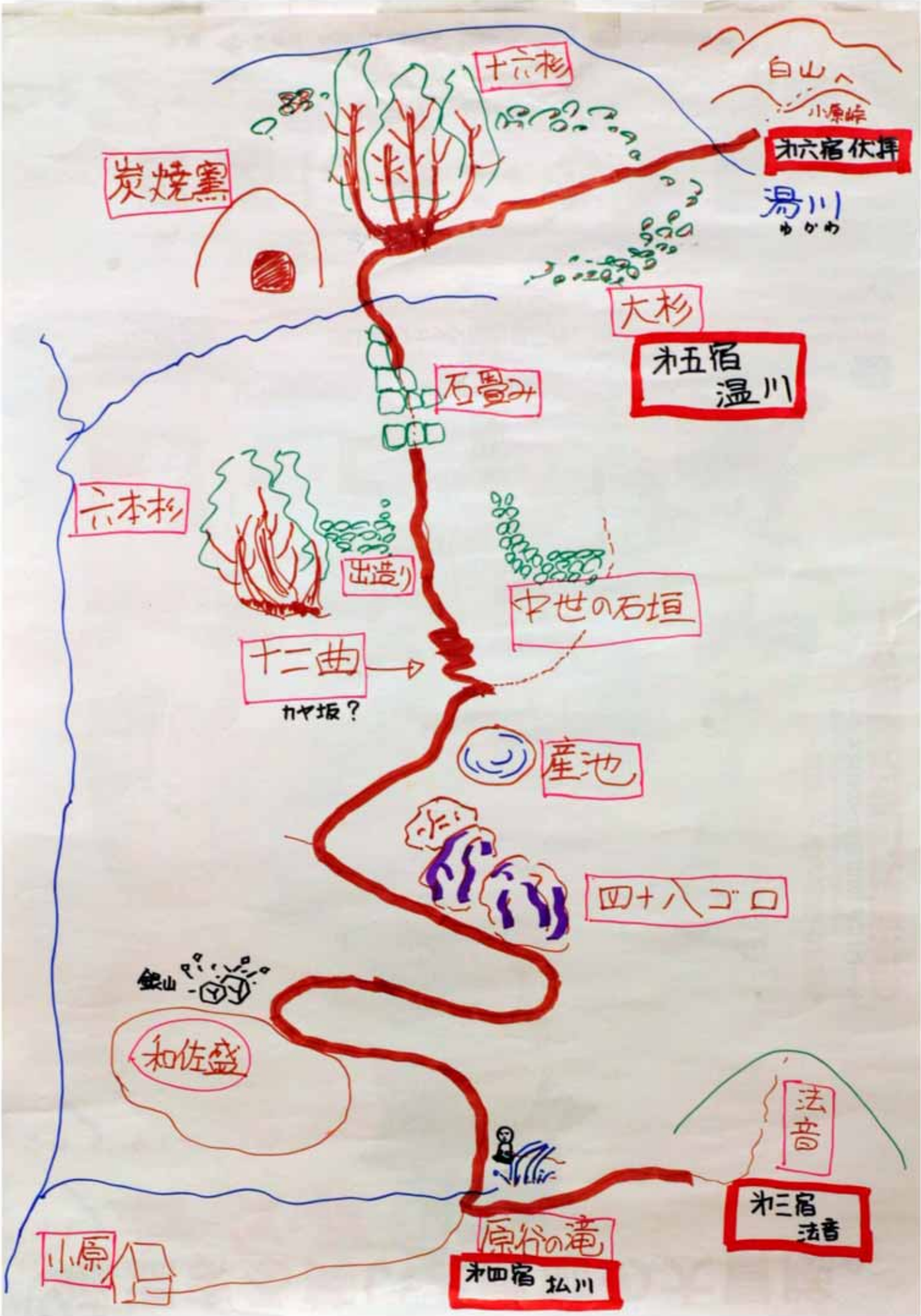
※ 今後の課題

- ① 禊道道の整備とその程度
- ② 駐車場整備とアクセス対策
- ③ トイレの設置
- ④ ゴミ問題 (ゴミ持ち帰り運動推進)
- ⑤ ガイドの養成

残すのは  の跡

持って帰るのは  感動!





林道コース体験ツアー

1日目：生活のベースをつくる。

①事前説明（道場にて）

②薪を調達（ニカマにて）

③食材の調達

畑で野菜・川で魚と水

④ベースキャンプへ移動

（ワサモリへ）

⑤宿泊準備（テント張り・夕食準備）

⑥夕食

⑦自由行動（星空・ホタル等）

2日目：遊ぶ

①動物ウォッチング（クマ ~~カモシカ~~
カモシカ）

②朝食

③シシトビ岩周辺の探険

★シシトビ岩

★まぼろしの滝

★めおと杉

④解散

フリー、お土産販売（茶山、キノコ、
軽食、菜等）

なぜ：多くの人に小原の自然と地元の
智恵を体験してもらい、その
後の生活に生かしてほしい。

何を：小原の自然と地元の智恵
誰が：多くの（特に若い世代）

いつ：夏の晴れた日

どこで：小原で

どのように：参加者に体感して
もらう

予算：基本料金3000円
食事は別

小原のひとびと



山の生活は
どんな風ですか??

地元学

世代間交流・複眼価値
内への協働



外の人の向きを
内の人気が気づき、
昔の智慧を
若い感性が
加ゆる



地元業人の謙「昔頃は何か
思わなかったが、素晴らしい(毛)
が、幾い子人たに気づかされ、
」

本誓寺の道場

小原村の文化を伝える。



吊り鐘を生かさないともたいない。
屋根は萱葺きの骨組を残してある。

腕木

現代版ベランダ

洗濯物も、粟もヒエも干す。



生活の工夫を
腕木に
みる。

土地の狭さ、日照時間、南向き、雪の時の出入口など。
考えられたベランダ。

小原自慢の風景

谷あいの集落の光景



思ひ
ぞ
開けた
視界に
感動

死者達が最後に眺めた景色。サンマイ(火葬場)へ行く道からも見える。

昔は水車の道をたどり、ここまで来る。ロマンチックな道だったでしょう。

生活の基盤は石垣

生活が生み出した知恵。
狭い土地を利用。



歴史の重み
感じる。
他に例を見ない
石垣の風景。

川石や山石を使って、人の手で積み上げた石垣の上に、家や畑を作る。
大変な御苦労を感じる。
少し草刈り、管理をしてほしい。

生活にいきる石段

狭い土地を利用

急斜面での生活道路

中世からの
生活を支える
石段

自然石の岩盤に、配ってきた落石などを加えて、階段を作っている。



小原のリュックサック

かまを使った籠

大きいものはテゴ。小はタミノ
生活用具



軽くて便利。
合せ目さぎ肉じた。
結むのデザインが
可愛い。

材料は、身近にあり、最後は自然にかえる。

かまの中に強度を増すために、ワラが少し入っている。

今は、かまが沢山手に入らず、作れない。西山はつ子さんの所持品

かつては

水車の道

イノクテ川.

イノクテ川.



今もここに
水車があつたら
絵になる
でーらう。

水車は 米をつく. ソバ粉をひくワラをたたくに利用.

水車は大きいのが2基あつた. 上流は村の簡易水道のもと.

あつたらいいね

金具のデザイン

倉屋敷の鍵



鍵に
倉の重みさ
知る

雲どりの装飾に、倉の重要性を感じます。
手のかけて欲しいと思います。

萱葺

現存する唯一の萱葺の家



はぶせなり。

トタンは

本来の姿を
思ったトタンには

萱葺にトタンをかぶせてある。他に本誓寺(道場)の屋根もトタンをかぶせてあるが、骨組みはそのまなので、萱葺に復元できる。

倉屋敷

よく火事が貴重品の避難場所



財産を守る
ための生活の
知恵

昔は13~14棟あった

よく火事が起きたので、アワ、ヒエ等食料や
目ふとん等、大事なものを別に納めた。
一棟ごとに個人の持ちもの。

生活の道具

玄関のものかけ

自然の
デザイン



木の自然の形を利用して作った道具



現_新の住民5名_{あり}、通年は4名_{あり}

4月~10月まで1/月道場_で生産組合員の集まり_{あり}。
昨夏、村_を出た人が協力_し神社の屋根_を示_してくれた。

越前禅定道

原谷の滝



伏拝から下り
和佐盛への
途中にある滝
修験者が
升平がーた滝

一回滝に打たれるプログラムを組もう。

越前禅定道

和佐盛も見下す場所



荒しい街跡

この地も今じゃ

銀山でさかえ

昔の鉱山街

跡地を文献などをを用いて調べた。

越前禪定道

四十八ゴロ



女人禁制の自由へ

登り下りした泰澄

の母が入山を

拒めた場所

勝山と泰澄伝説のついた場所

越前禪定道

十二曲り



長兵衛平へ

急坂

文能ひは

茅坂

「きろんと整備された道に思われず、

越前禅定道



長・中世の石垣

道中の他の石垣とは
違う石組み、

禅定道を中心に左右二十間、は
平泉寺の管理下か？

越前禪定道

六本杉



巨杉

十六本杉に並ぶ

次

出造り 杉た事を証明する環境 杉た

越前禪定道

出造り

江戸時代後期より不明の
出造りと便所跡



越前禅定道

石畳み



・ 整正備された

・ 典型的な禅定道の

なこり

・ ~~人が歩く事によ~~

・ 人が歩く事によ

古道
~~歩道~~に 触れてもらう。

越前禪定道

・大長山



大長山方面や小原峰
見上子
毛見木村より車か出来る
場所

この区間において最も眺めが良き所

越前禪定道

・大杉谷？



・山の中に見つかる
意外
意外
性のある谷。

・この谷の上流に湧水がある。

注. 熊谷のつたて火田がある。

地元

温かい様に!

起前禪定道

炭焼釜窯

本型窯



ここに昔炭焼きかおこなわれた。

越前禪定道

十六茶杉



太い株の上に16本の
幹が育った。

・茶壺大師が白山に登る途中にこゝで杉はしを
さしたところが巨木になったと伝わっている。

カンジャキ

集落跡と現存している
最後の集落

小原橋の上流の集落をカンジャキと呼ぶ。
全盛期には20軒程の家があった。
表層雪崩(現地の言葉でアワ)で数軒
破壊されたという言い伝えがある。
昔、田んぼだった頃、虫がここのによくいた。



集落遠望



林道より集落を眺める
最高のポイント

昔は80軒程の家があったが現在30軒弱まで減ってしまった。
今住んでいる人は5人。(3軒)
道を狭んで上と下で集落の呼び名が違う。大きく4区分されていた。

③ ニカマ



現在は杉林となつて
いるが昔は畑だった所

ほとんどの村人が所有する畑がこの辺一帯に存在していたが
村人が集落より離れる時に杉を植林していったため現在は
杉林となっている。

この辺は約5ヘクタール位の平坦な土地が広がっている。

①

モリアオガエルの生息地



モリアオガエルが
生息している沼地

この辺は約0.2ヘクタールの沼地であり
多くのモリアオガエルがいて、6月下旬の
産卵期には周辺の樹木が真白に
なる位、卵を産みつける。

⑤

めおと杉



二本の大きな杉

カラス岳の尾根筋にある大人2人がかかえる程の大きな2本の杉で並んで生えていることから地元の人はめおと杉と呼んでいる。

⑥



シシトビ岩

小原の

グラブメント
マンニオン



両側に切り立った岩壁がうらなる
壮大な溪谷。

地元ではイノシシが跳んだと伝えら
れていることからシシトビ岩と呼ばれている。

是非見るべし!!

⑦

まぼろしの滝



シシトビ岩へと
流れ落ちる滝

いくつもの滝がS字状に蛇行しながらシシトビ岩に流れ込んでいる。
水量が少ないと見る事ができない滝。

ベサイテン滝



原谷川の
口最後尾にある滝

昔、天女が舞い降りたという言い伝えがある滝。(滝の高さは不明。目測りで約30m)

⑨ 修験者の滝



修験者が清めに使った滝

越前禅定道に位置し、修験者が修業のために
打たれた滝。

現在は林道沿いに位置し身近に見ることが出来る。

10

ワサモリ周辺



昔、集落があった場所

この周辺では、銀の採掘が行われており、かつてはこの辺一帯に100軒以上の集落があった。

現在では石垣が残るのみである。

また、この近辺では、多数の巨石を見ることができる。

滝波川の対岸では季節によって様々な動物を見ることができる。



林道終点



中地蔵と湧水

禅定道の修業僧が彫った地蔵。以前は禅定道沿いに安置されていたが人の通行が無くなため林道沿いの登山口にうつされた。この湧水は昔、ワサビ澤だったが林道がつけられたため、ワサビ澤が無くなり現在は登山者の水場として利用されている。

美濃禅定道を

たずねて!

ポイント① 国の天然記念物で
ある**大杉**に年間6000人の来客

ポイント② 中居神社から**美濃
禅定道**が整備されたが、
だれも通っていない。

この二つのポイントを合わせて

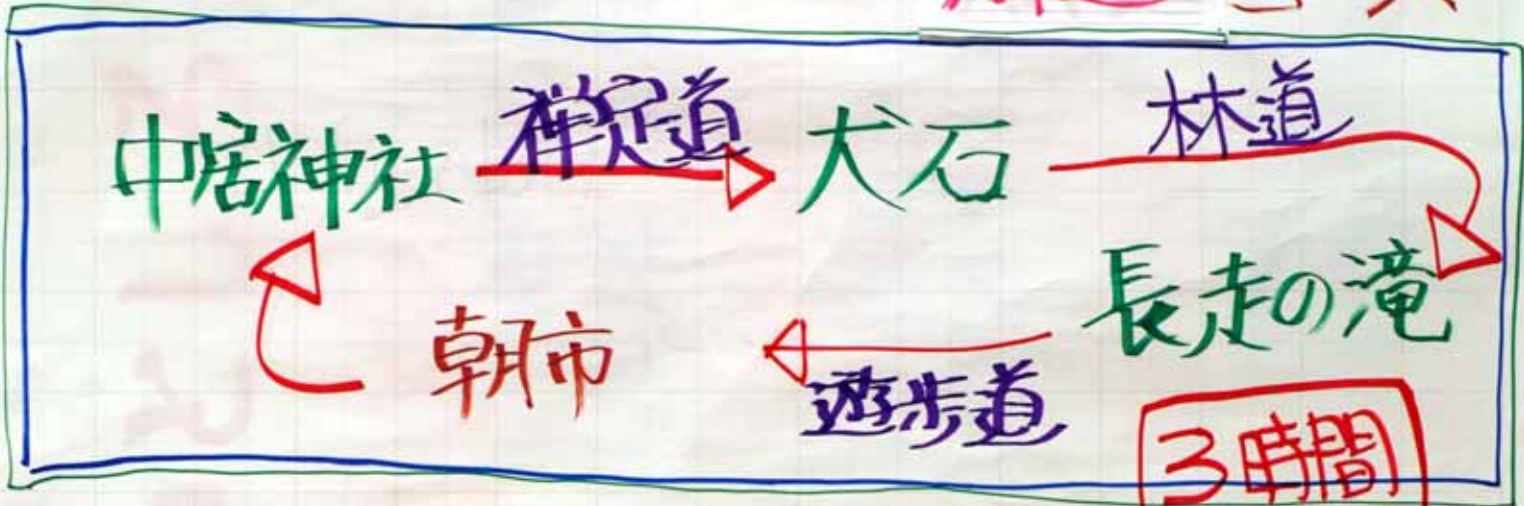
石徹白大杉の**魅力アップ**が

できるはず。

- しか **問題点**
- 車の送迎が難しい。
 - 案内がなく歩くだけではわからない。
(歴史やいわれが)
 - 大石から林道の区間が歩きにくい!

70%

石徹白地域 美濃禪定道 周遊コース



ターゲット：大杉観光に来る中高年

方法：パンフレットを作成し配布
(手づくり感・あたたかみを出す!!)

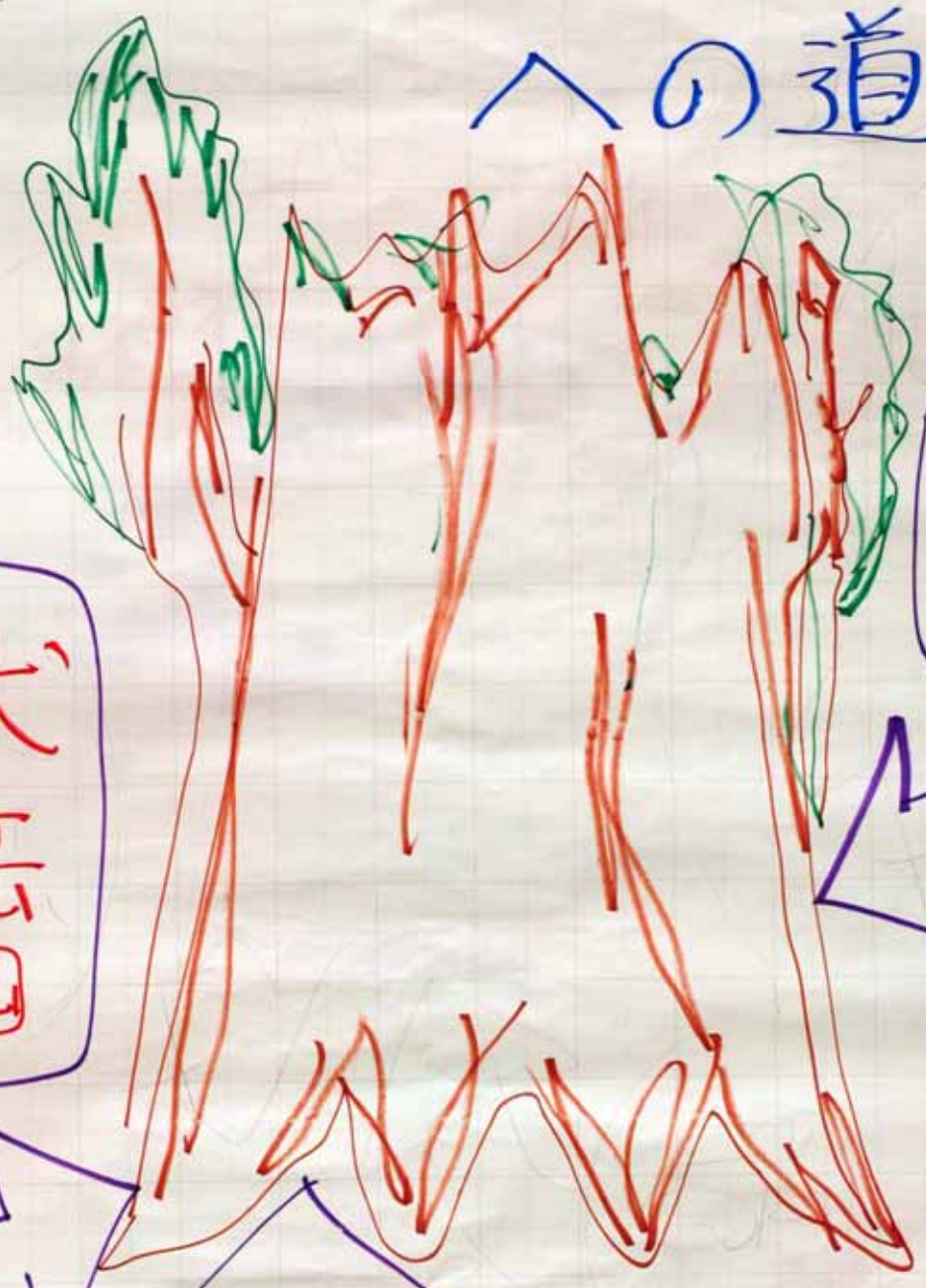
配布場所：朝市・大杉登山口
「何はば...」千人斎 石徹白のみんが活用できる拠点とする

実施期間：春から秋

〈手紙〉～これを実現する為に～

- 地元の人々の勉強会実施 (誰に聞いてもその趣が話せる)
- 現地の整備作業 (ロープ張・標示・案内)
- 登山者数データの活用

さらにグレードアップ への道



周遊
コース

野伏
ヶ岳

300名山

登山道整備
(通年)

郡上観光

のるるふなどに記載
の市パンフレットに記載

石徹白地域の美濃禪定道



もうひとつのふるさと
神と仏の里 いとしろ

なぜ？

もっと石徹白を
知ってください!!
~深い自然と歴史~

誰？

訪れる人： 家族

迎える人： 大師講員
壮年団
民宿の人



どこで？

大師堂を中心に
集落探訪

どのように？

一日ゆたりのんびり
地元食を味わう

いくら？

2800円 (昼食保険込)
※ 拝観料別

いとく
くくく



神々の住む杉の里

体験ツアー

浄安杉 お昼

中居神社 天然杉 開 休取水

スキー場

集合 10:00



神々の住む杉の郷

なぜ 石徹白という地域が神道と自然が
何を 一つのサイクルの中にお互に共存して
いる事を理解してもらう

誰が 小学生とその親

いつ 雪の無い時 初夏～初秋

どこで 中居神社を中心とした上在所

どの様に 資源カードを基にしたパンフを使う

いくらで 1000円～3000円

地域資源のグループ分け

中居神社

宗教的背景を表すもの

・神棚

・しめ縄

自然を感じさせるもの

・淨室杉

・天然杉

プログラム内容に厚みを持たせるもの

・イボ取りお水

・絵図面

・杉の中にある石

いとろいろいそツアー案

第4班

⑨-1 大正時代の小学校と村役場 (今は廃家)



1階が村役場
2階が小学校

村役場と小学校が1つの建物
なんてビックリ!
ここをビクターセンターに改装して
ツアーの拠点にする。

⑩ 常島山 円筒寺



神仏分離により上在所から
移転された。

雪囲いにより中が見られなくて残念。
「このお寺はもともと上在所にありましたが、
上在所は神様の領域なので、明治
の神仏分離により人間界に降りて
きました。」と説明。

⑪ 詩人 鮎川信夫の石碑



鮎川信夫の生家

石徹白の文化的DNA。
有名な詩人の鮎川信夫のルーツは
石徹白だった!

⑫ 御神明清水



今でも共同の菜洗場
に使っている。



水資源が豊富な石徹白。
いくつかある清水のうち「御神明清水」
きれいな水なので水草も繁茂し透き
通って見える。今でも共同の菜洗場
として使用中。

② 二十日石から見た 神明方面

二十日石の標高が異なるから二十日石の地帯が狭くて
農業が盛んな水田と畑と畑とがある。



日本の農村の原風景。
暖くなる時期に、また
来てみたいですね。

④ 新倉いばす (高田)



源三郎は
石蔵の地蔵
ルツ。

戦国時代の神官兼
為政者・源三郎。
首は朝倉氏へ献上され
胴体は17か所にまら
れている。

②-1 浄土真宗大本堂 白山 威徳寺



お寺で最も古いのは円周寺。
最も大きいお寺が威徳寺。
お寺に鳥の石前がつかっているのが
珍しいです。

石蔵前 源三郎の首の石蔵

②-2 朝代ゆり石畳



馬の足元が滑らぬように
石かまの石畳がある。

石畳を敷くのは、昔から
ないよりの石畳かまの石畳
が多い。

昔は馬産地だった
ので、馬の足元か
ぬかまの石畳
が多い。

②-2 威徳寺 御拜の彫物



宮木工が虫持の技法。
いたる所に彫刻が施されている。

②-1 石蔵前 石蔵の石垣



蔵前石工の理削りより石蔵から見た時に見える石蔵の
様子がある。

旧越前の国だ、
ことを示す石垣

②-3 威徳寺 鐘の堂



石蔵
志比文工
(400年石蔵)

ご住職自慢の鐘つき堂

②-4 墳墓



威徳寺の墓

昔の石蔵の墓型は
置いている。

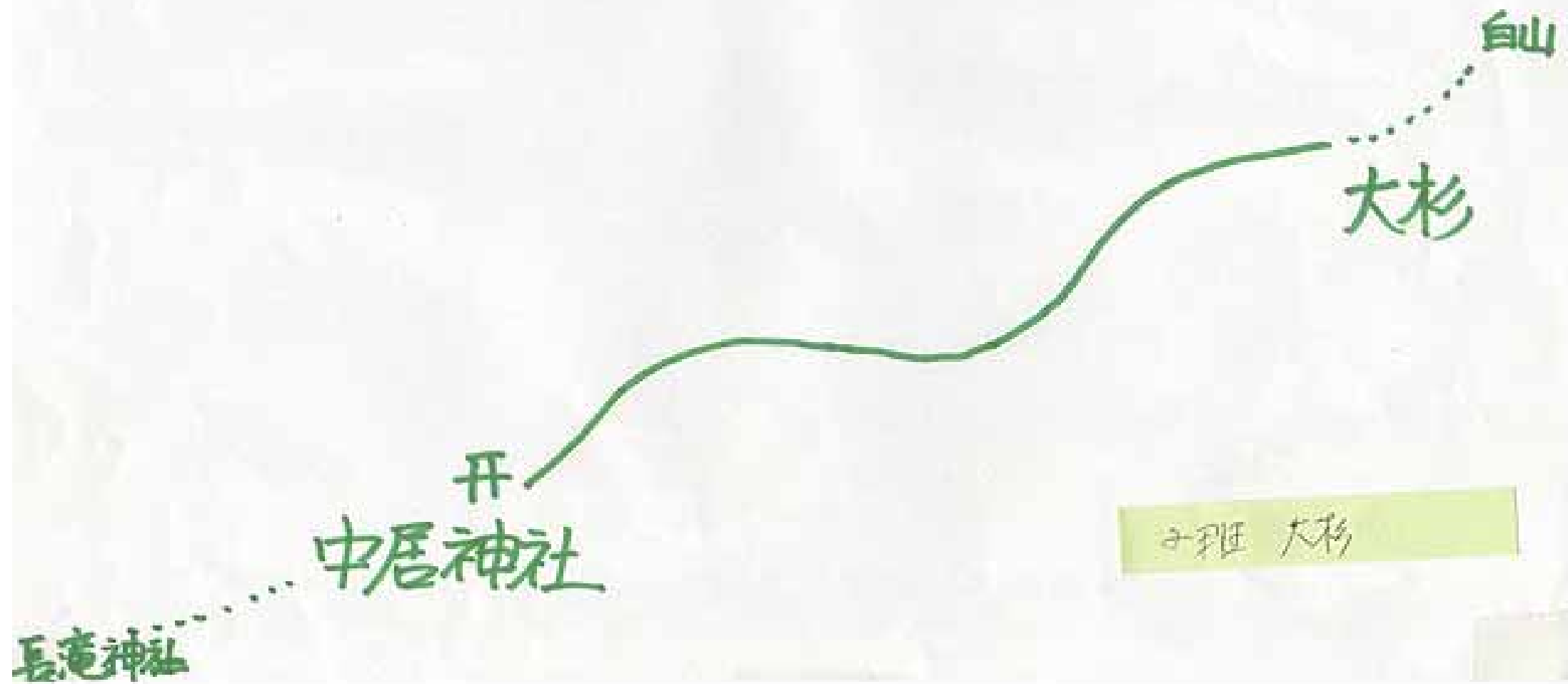
「墳墓」という石前が珍しい。

菱型に置くのが下らわし。

↓
大師堂・中居神社・
大杉へ

美濃禪定道を 美濃禪定道 No.1

たすねて!!



美濃禪定道入口

美濃禪道

No.2



中居神社からの
登山口

近年中居神社からの禪定道の
入口として復活し標柱が立てられた。

⑥

イボ取りお水



塗ると、
イボが消える。

岩のくぼみに、水が自然にたまり、その水でイボに塗ると
イボが消えるという。今でも遠方から、水を探めて来る
人が多い。

中居神社 脇の禪定道

美濃禪定道

No. 3



杉林の中をしばらく急登する。

境内
脇の
登り
坂

登山道脇の林相比較

美濃町道

no. 4



杉
の
植
林

杉の部分は昔、焼畑、藁場

などに利用され、最後に杉が植林され
現在のようは状態にふつてくる。

湿原

美濃禪定道

No. 5



乾
湿
原

雪解けの頃は水があり 秋には今の様な
乾いた状態の湿原。

休み場

美濃禪定道

No. 6



人
工
的
に
積
ん
だ
石

山仕事の重荷を
この岩に集めて休んだ場所。

ぬた場

美濃禪定道

No.7



イノシシの
糞の場

寄生虫(ノミ・ダニ)を泥で落し可なため
糞ころがったりする場所(湯水が少い)

土橋

美濃禪定道 No.7



道の右側(土林の中)にある
数少ない水場

禪定道脇に
湧水

杉林の広い尾根

美濃禪定道 No. 8



登山道
歩ける
軽快に

神社から急な登りも過ぎると後はフラットな道が続き、非常に歩きやすい。

杉林をぬける。

美濃 禅定道
No. 9



広葉樹林帯

人工林が終わり広葉樹になるに辺りが
急に明るくなる。

美濃 禅定道

No. 10

宿り木



人工林と天然林
の境に多数出現。

動物が活発に活動する事により
植物の種子が他の樹木に発着し出来る物。

展望台.

美濃 禅定道

No. 11



野伏の眺望

300名山 野伏ヶ岳(1,674m)の眺望の良
場所

小白山

美濃禪定道 No.12



野伏ヶ岳の南側

地えではこはくまんと呼ぶがここから
流し出る谷はおじらみ谷と呼ぶ

斧石
よじり

美濃 禅定道 No.13.



泰澄大師が開山の際必要なくなった斧もこの石に打ちつけ刃を
つぶした跡。(この斧を扱いて後で捨てた場所が斧が流
しう)

お輿宿り

美濃禪定道

No. 14.



た山
ミコシを担ぎ上げ

5月の祭の際に下からミコシを担ぎ上げた。
杉の巨木が数本あったとされるが現在はどの場所
が分らない。

美女下社跡、

美濃禪定道

no. 15.



女人禁制である白山も、ここまでは女性の
入山が出来た。

入山して最初の
社の社

美々下社跡の切株

美濃 禪定道
No. 16.



杉
の
切
株

美々下社跡を探る時、この切株があった事により
社跡を発見出来た。

美女下社の下の石積

美濃禪定道 No.17



伏拝跡？

美女下社の下に石積があり、展望の良い場所。
伏拝とも考えられる。

犬石

美濃禪定道 No.18



奉澄大師の母もしたた侍女
が待ちに待って石になった

侍女が待たなくなった
石になった

今清水社跡

美濃 禪定道

16.19.



拝殿・社殿

宿社を備えり

養老年間に設けられた、大規模な神社
施設がみられる場所。(大杉横)

熊清水

美濃禪定道

No.20.



大杉近くの水場

禪定道上の数少ない水場の一つ
大杉近くに豊富に湧いている。

石徹自の大杉



大杉表と裏の
比較

大杉の背後は勢いを感じぬ。
杉の枝が生茂っている。

①-1 城山

お堀

で、まる
出丸跡



手堀りのお堀跡で

東はかヶの自然要塞、
西は谷になっていた。

かつては **目張りやぐら**
4班 集落
が立っていた。

城山跡

①-2 源三郎屋敷と本丸跡



石徹白城 歴代城主

見河合

林阿弥

源阿弥

○石徹白 源三郎

石徹白 右衛門

④ 冬の風物詩



雪垣を掃ぶ「ねぞ」(いる)



赤蜂の巣



消雪池



えびす塚の
軒のまわり

⑤ ^{おんしんによつし}安養寺 (小橋町) 西在所道場



かつては若君のたまり場
だった。

こうしんさま

⑧ 庚申様 (道祖神)



明治時代の神仏分離により
上在所の道筋から移された。

⑨ 丹右エ門の水屋



個人所有の水洗場

他にも個人所有の水屋が
いくつかある。



⑫-2 現在の小学校体育館(2F)、農協と市役所支庁(1F)



このように一つの建物で複数の機能を持たせている。

屋根の数を減らして雪下ろしの労力を軽減。
縦割行政を壊している好例。

⑬ 大正時代の旅館（大正旅館）



当時としては珍しい二階建ての
旅館だった。

④ イトシヤロータウン(スキー場)



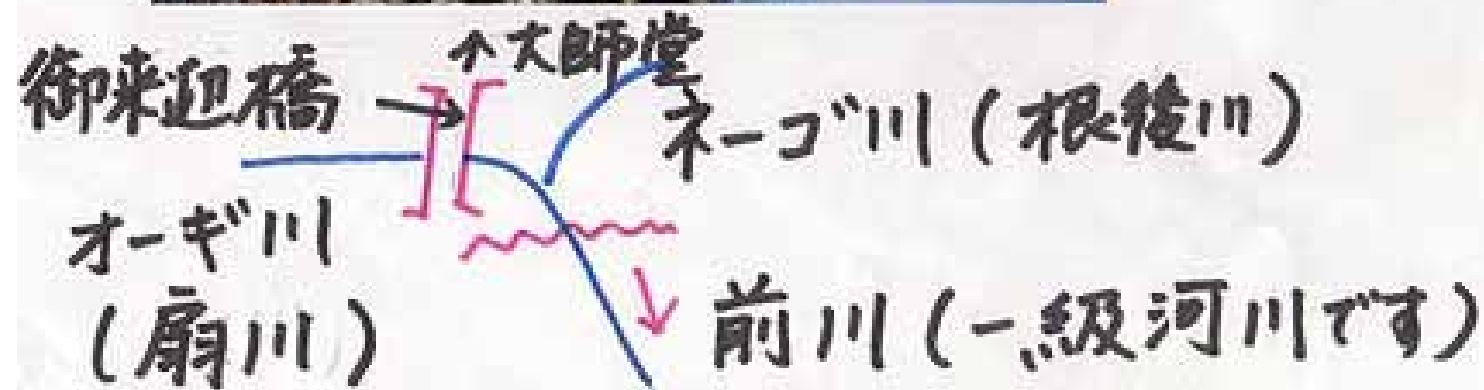
石徹右の展望台

集落を一望できる場所

2つの川の出合い



合流する場
ネーゴ
根後川と
オーキ
扇川が



磨白



バツクリに使った磨白
今は手洗い水に利用しています
1軒に1ヶは磨白があほした

古民具の
再利用

泉水のあるくらし



雪深いため家の庭に池を造り
融雪に利用している

石徹自式
庭園

水を利用する



清流
豊から

石徹白の里

石徹白は水か豊かです。どの家庭でも
おき水を利用し生活用水 消費用にと
家の周りは 豊かな水が 先人からの知恵で
利用されています。

石の造形



庭石に利用されている

自然石



人が手を加えただけではなしに、さまざまな形の自然石
うまく利用して庭石に活用されています。
何でこの形なの？ 鬼やが考えてしまいます。

上 - 水みぞのある石

下左 - ロウソクを入れて灯りの石

下右 - こま犬

も想像してほしい

コケむした庭



石徹白の多くの家では庭に石を利用しています
石が多くある事と昔はコンクリート等なかったため、
いい感じにコケが生え 落葉ときれい

つべ・さびの世界
庭先の石畳

アジロ積み の 石垣



自然石と交互に積み上げる工法と
アジロ積みという

こちら

は

石徹白小学校

美濃 弾定道



冬枯れの棚田

美濃 弾定道の近くに残っている棚田。
陽だまりが暖かくやさしい感じ。
ほっとする風景です。

美濃禪定道



↑ ↓ 上の写真

中央の道が禪定道です

左
丸の

右
白山

庭先の禪定道

美濃道 ①



昔白山参りの方々や石徹白木ッカ
牛馬の通った生活道路です

美濃禪定道

昔のおもかげが残り、この道

美濃道 ②



石畳の一部残っています
昭和40年位まで使われていました。

石畳が残っています

美濃禪定道

みのから
美濃道



民家の庭先に残っている弾定道
道標です

見違ひしやうい。よく見てネ。

大師堂の参道



村の人々が
積んだ石段

明治の神仏分離令、排仏棄教の難から
仏様を守るため、村の人々が力を合わせ
作り上げた大師堂。この参道も人々が
石を運び積み上げた。

大師堂 ② 観音堂

ザ★御三家



↑
薬師如来像
今冷水(いましみず)社
から移された



↑
虚空蔵菩薩 御影
中尊寺にて開眼修法
公された



↑
释迦如来像
二の峰の水呑権現
から移された

観音堂の扉と額



大 悲 関

おびりのばな扉
菊の御紋入りです。

重厚なるもの。

「謝恩」



大師堂参道の
石碑

明治~大正にかけて石徹白の人々を無償で
治療した医師へお礼の気持をこめ建立した

石徹白のお大尽通り



立派に
ある通り

どの家もお宅も立派です
水も利用しやすく工夫した池も
やっぱり立派です

しい

志比の大工②



志比大工に
よる民家

社寺建築を行う志比の大工が民家を手がけた珍しい例
戦後、7年かけてつくられたこの家は石徹白に珍しい瓦ぶき

雪囲い



冬仕度

冬將軍を前に雪から家を守る
雪囲いもします。

庭木も雪組垣もします。

倉戸



“用の美”

鏡前のデザイン

倉戸

倉戸. 鏡前 ちよとさひかれて
いい感じ.
歴史を感じる鏡前

うり
売 家



旧小学校
旧役場のいま

石徹白初の小学校（石徹尋常小学校）、石徹白村役場が置かれた建物は今、個人の別荘となり、更に売家になっている...

中在所 西在所 全景



大光
御向山に抱かひ
石徹目の集落

カルガウヒとほる 駐車場の在所を眺める。時々 子鉄の聲で車の音が響いてくるほか、静かな時が流れる。天気が良くとこの石午の方向に三の峰 別山など見える。

① しめ縄

神域との境界線



昔、石徹白は、除地といわれる社地であった。社地であったため、貢納の義務は、無く

祭典(まつり)であった。神地の中でも、中居神社の神域となる場所（社家が住む所）を示すためのしめ縄が張られている。

※祭典：神社を維持運営するための経費。

②白山中居神社

②



伊弉那岐命^{ながれ}を
御神体とする
本殿

景行天皇12年(西暦83年)創建。

今のものは、安政3年(1857年)に建てられ、一間社^{ながれ}流造
といわれる建築様式で、正面にはアワの穂とウズラの
精巧な彫刻が施されている。扉には、~~十六夜~~の菊の紋の
彫刻が施されている。

③ 天然杉



石徹白にある
天然杉の巨木

石徹白には樹齢1000年クラスの杉が今も神社を中心に点在している。枝が普通の間伐材より太いなど、通常見られる杉と比べると変な感じもするが、本来、杉はこのような形である。このような杉が100本はあるという。

④ 浄安杉



樹齡
1300
〜
1500
年。

巨木

中居神社境内にある

高さ32mの大杉

幹回り13m

白山中居神社から10分強登るとその姿をあらわす。

その昔、浄安という住職が、この杉の根元に大金を埋めた。埋め終わった浄安が坂を下っていると、カラスが「浄安鍬は？」と鳴いたので、浄安は鍬を忘れたことに気がついた。それより、この杉を浄安杉と呼ぶ様になったという。浄安は、その後、遺言でその金は白山が困った時に使う様言、残したと伝えられる。

⑦お寺製の山林地図



社地である石撒白全体を
描いた明治の絵図面
(明治十四年越前国大楚郡
石撒白村山林地等字限
見取絵図)

上在所にお住りの石撒白清住さんの祖父ともの友人が
二人で測って描いた絵図面。赤字で地番と道・谷が記されている。
図面の大きさもあって迫力がある。

大師堂の門前



「泰澄大師霊場」の碑

今でも信仰厚く。
人々の奇進による。



泰澄大師の像
(雪垣 清み)

大師堂 ①



色白 は 泰澄大師

↑ 白山開祖の泰澄大師像を
祠ったお堂

→ 明治維新の神仏分離令で
移され祠われている



大師堂 観音堂 外観

明治5年の
石段と
明治20年の
観音堂



↑ 観音堂は仮のものとして
建てられた。

観音堂への石段、この石段も →
石垣も村の人々の手で作られた



ヘンビの枕石 上ハ野の一本杉



大蛇が石を枕に寝ていた
蛇の長さは一本杉を七回り半
あったといわれる。

うた
た
た
ね
の
ヘンビ

泰澄の腰掛石



泰澄大師が美濃道を歩いた時に
腰を掛けて休んだといわれた

美濃道の
づんち

ごらいごういし
御来迎石



大事にすれば
病が直る

大師堂にかかる御来迎橋の下にある、ひとときわ大きい石。俗界と聖地を境する石。どれほどの増水でも決して流れることはない。

とうもろこし畑



石徹白はおいしいとうもろこしの産地です。
多くの人達の胃袋を満足させました。

初冬の風景

とうもろこしの取入後は石徹白カブを
作ります。

取入後のとうもろこしの
印々株

志比の大工 ①



威徳寺の
鐘つき堂

昭和28年創建。
永平寺大工である
志比大工の手に
なる彫刻。

市左エ門さんの家の大杉



母樹

いとしろ杉の

この大杉から取った種で育苗し
植林してきた

白鳥山威徳寺



室町期創建の
石徹白が一番
古い真宗のお寺

高山別院の懸所として別の所にあつたのが、室町時代に領主・石徹白源三郎が現在の土地を寄進した。ご院主が定着するようになって現在で3代目。このお寺の境内では「石徹白の盆踊り」(市指定文化財)が毎年行われる。

イチョウとナンテン



安養寺道場の

イチョウの木

イチョウの大木にナンテンの宿り木
としてふしぎな自然の造形

観光案内板



せつかくの
案内板が
...

石徹白の名所、名物が描かれた案内看板が、これも豪雪地帯
石徹白のゆえ、除雪のときに現在のようにならしい

平瀬の魅力づくり作戦

通過型から **滞在型** へ

テーマ **秘境 白山のお膝元**

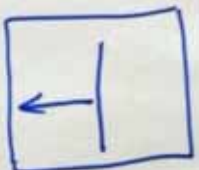
1. 誰に：遠山家来場者、平瀬温泉利用者
2. どこで何を：
 - ① 平瀬周辺で産出する原木による なめこオーナー制度
 - ② スキー場のゲレンデを利用した 山菜園
3. いつ：春は山菜園、夏～秋はなめこオーナー
4. 誰が：山菜愛好者組合と旅館(食堂)
5. いくら：なめこオーナー 1本1000円 5本1口4500円
＜特典＞ 山菜園の入場無料
スキーリフト券半額券5枚
山菜園 大人500円(入場料)

（軒の集まりのため）

飛驒清見 IC

白山国立公園

↑
(理)白山公園



白山地獄谷

○ 白水の湯平瀬温泉

年間来客数
86,000人



○ 白山登山口

年間登山者
5,000人

○ 大白川露天風呂

年間入浴者
8,400人

○ 遠山家

年間入場者 10,000人

平瀬の近代史

元々、7軒の集落であった。

大正15年 平瀬発電所完成

昭和18,19年 鉾山(モリブデン)景気

昭和35年 御母衣ダム景気

昭和38年 大白川ダム完成

昭和43年 大白川温泉を平瀬に引湯

昭和44年 平瀬温泉共同浴場完成

平成元年 大白川に露天風呂完成

平成17年 しらみずの湯完成

平瀬のかたりべ と

オプショナルツアー

なぜ：リピーターを更なるファンに！！

更に口コミで、新たなリピーターを！！

いつ：かたりべ いつでも。 夕食の後など
オプショナルツアー (予約をとり) ダムは夏か冬
他はいつでも。

誰が：旅館の旦那様や おかみさん。 と。
地元の詳しい人や ダムの管理者 と。

何を：旅館での夜の「かたり」
それに関するオプショナルツアー

どこで：旅館で
ツアー案は、近代史であれば

御母衣ダム
大白川ダム
荏川桜
平瀬発電所
鉱山跡地等。

方法：「かたり」からの興味付けによる
オプショナルツアーの開催。

いくら：各ツアー 1人 1000円。

膳箱



一人々々の
食器の収納箱

箱の中に食器を収め、ふたをあけ、裏がえして重ねてお膳になる。
一人一人の膳箱は決まっており、出してから片付けるまでが食事
だった

お弁当箱



フレッドワークに

持ち歩いた木製の

弁当箱

つのおりごには2-3食分のご飯が、かんかん
こ詰められていた。山仕事・畑仕事、野良仕事はたの
に伴い、持たれて行った。

にのも



ね
ー
こ
だ
と
も
呼
ぶ

かをかついで運ぶときに着たもの。今でいう肩パットや背パットの
ようなもの。汗を逃がす(すぐに乾く)効果のある麻で作られている

養蚕



吊り棚

カイコを飼うための

耕地の少ない山間における重要な産業であった。
白川郷の合掌造りでは2階以上のほとんどの部分で
蚕が飼われていた。およそ昭和30年ころまで行われ
ていたという。

いろいろ



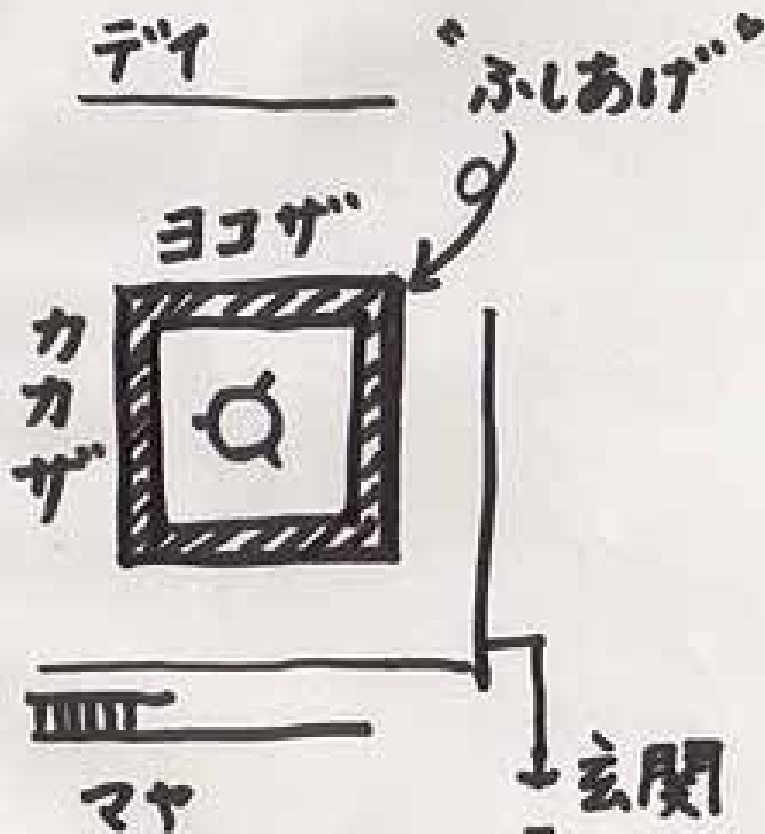
囲炉裏は
暖房であり 炊事場であり
家屋保全の重要な役割を
担っていた。(煙は、殺
菌、防虫、腐敗防止など
効果あり。現在でも毎日
火をたいている)

か
な
り
と
も
呼
ぶ

ご
と
く
が
主
流

白川郷では自在鉤はあまり用いられない。大家族の
ための大きな鍋などのために ごとくが用いられたのでは？

ふしあげ



囲炉裏の縁

畳と火床(ヒドコ)を区別した、囲炉裏火をうやまうことも意味した
ふしあげ。囲炉裏火は神であり、ふしあげは神を守るような存
在のイメージ

ひやあま



ひ
あ
ま
火天 と書目く
衣類の乾燥
食料の保管に便利

因炉裏の火がとぶことを防ぐための
火除けのミニ天井のイメージ。この上に食べ物を置いた。
それは単に煙でいぶすことで保存期間を長くしたり、うま味を増す
だけでなく、ネズミの被害を防ぐ意味もあった

すのこ



煙を循環させる
ため二階の床の
一部に用いる。

根曲り竹を、火や湯に通し真っすぐにし、縄で編んだもの。煙を建物全体にいきわたらせるために重要な役割を持つすのこ。

べんけい



ひやまに
くん製を作る
ためのもの

鮎や岩魚のような小ぶりの魚を串し刺し、この串を刺した
もの。囲炉裏の煙にいぶされて、くん製になった魚はダシなどに
用いられる。なおここには串が小さかったが昔は平瀬では1m級のマスなど
の魚が獲れたそう。

こまじり



合掌屋根の
下部

建物にかかる異常な力を逃がすための先人の工夫。
この知恵は現代のコンクリート建築にも応用されている。

合掌の 結束



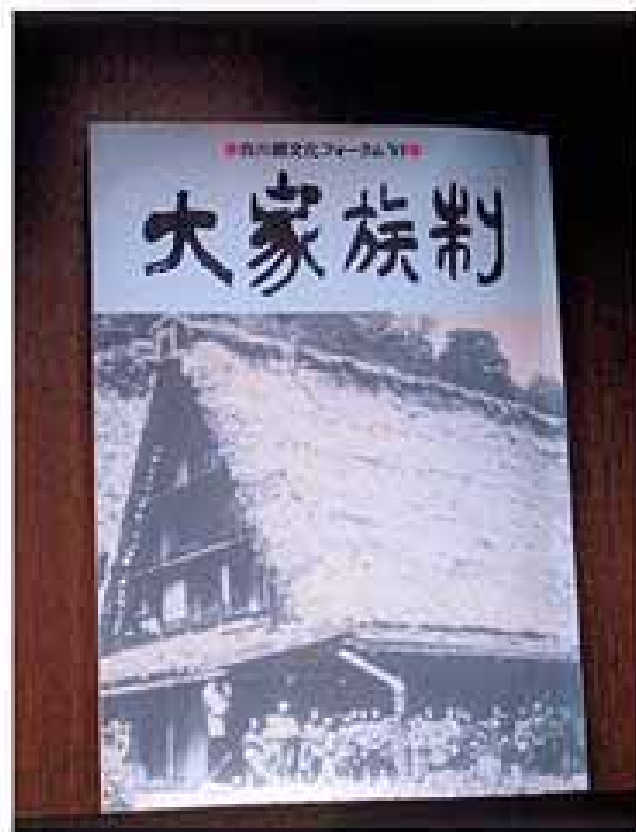
ちよんやで削り出された
柱を、屋根部分は
釘を一本も使わず、
わらとネジのみで組み
立てる。

柱と柱を結ぶわらロ
すべり落ちない様に
くさびがある。

わら縄の他に
ネジ(スズバヤミ等)
も用いる。

※ ちよんや = ちよ-なとも言う大工道具の1つ

かつての大家族



あった
遠山家

40人(以上)
が同居した事も

昭和43年に村の管理となり公開されるまで
人数に変化はあるものの遠山家の人々が暮らした
大家族制は白川村全域に見られたものではない

報恩請料理



パックの中は山菜や
木の实など
手前の汁物は
「すたて汁」
ひきたての大豆で作った
すたて汁は絶品!
お好みで味唐がらに

平瀬の
山の幸をふんだん
に愛った郷土料理



料理を作ってくれたのは

左から大松美枝子さん右紀子さん桃佐ちゃんの方々

おだれ



雪囲い
白川郷
独特の

オオガヤ(すすき)で作られた雪囲い。オオガヤは平瀬周辺で
萩町ではコガヤ(カリヤス)が用いられる。但し現在ではこれらのカヤは
御殿場市などから購入されている

狛犬



木谷白山神社

口の中の石玉に

特徴がある。

職人技が光る、口の中の玉はくるくる回るのに どうや、ても玉は取り出せない 不思議



酒蔵

木谷白山神社

9どぶろく蔵



10月10日 この神社へ参拝した人々に
無料でふるまわれるどぶろくの貯蔵
庫. 今はまだ穴場です

民具



かつての保育園に
保管されている
民具たち

資料館用に集められたが未だ目の目を見ることなく置かれたままの道具たち。

どぶろく仕込み



なう。

仕込み作業を行

白川では各神社で
氏子が当番で

4割精米した米を洗米→蒸す→こうじと水と合わせ
樽につめて発酵させる。その時の気温などで(管理の仕方)で
度数が異なる。

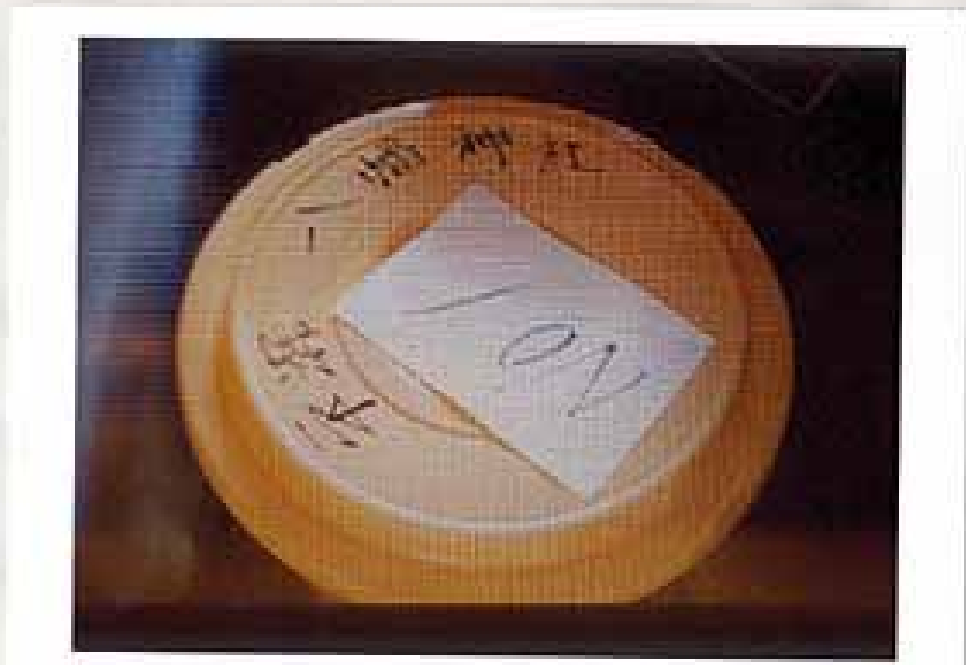
洗米機



平瀬八幡神社
は洗米機を購入

新しく導入した洗米機でどぶろく用のお米を
研いでいる様子。お米の正確な重さを計るため
洗った後は一旦水を切るためにざるにあける。

洗米おけ



平瀬八幡神社
平成十八年の
洗米

この神社ではアキタコマチを千割精米した米を使用。
洗米機で洗米し、ザルにあけ水切りした米を、翌日蒸す
までの一時、保管しておく桶

昭和35年の国勢調査では、

白川村 9,700人。

平瀬には、1042戸 映画館

本屋等があり、大変な賑わいで、

「飛騨の上海」・「御母衣銀座」

と呼ばれていた。

鉾山跡地



杭道
総延長
数10km

モリブデン 純度99% 日本一

明治44年より小規模に採掘。

大正15年に有望なモリブデン鉱が見つかる。

第二次世界大戦中に、需要拡大、

昭和18~19年には1200人が働いていた。産出量9000t

昭和50年に閉山。その後、杭口を塞ぎ、現在に至る。

霧立ちの水



やわらかい

杭道の奥からの名水

杭道の奥より、湧き出ている。

遠くから水を探しに来る人が絶えない。

平成17年に、上屋を整備し、「霧立ちの水」と名付けられた。地元の人々は、「鉦山の水」と呼んで、親しんでいる。

御母衣ダム (発電所)



高さ131m. 幅405m. 体積800万 m^3

日本有数のロックフィルダム。

昭和35年に完成した。当時は、東洋一
発電量21554kw/h.



庄川最上流のダム。

下流にたくさんのダムがあり 水量の調整や洪水対策に、非常に苦勞をしている。

環白山には、^{他に}千取ダム、九頭竜ダムなどのロックフィルダムが多い。これは、火山に起因する花崗岩の多さと、地質のむろさから、ロックフィルダムが費用的にも、当地に当てているからだという。



地下 80m まで、ケーブルカーで下がる。
すると、そこに、タービンが 2 基ある。
満水位の湖面が 207m の地下。
この落差で発電する。



タービンの取換用の搬入路 1.2km.

同じくタービンを吊るクレーン 2基

トレーラーは、バックで1.2km走って来て、荷を下ろして、前進で出て行く。

クレーンは2基使っても、たかむ程、タービンは重い。

平瀬発電所



坂本善兵衛

福沢桃介

発電所

庄川水系初の

大正15年11月26日竣工。発電開始。

1514kw. 建物自体は、当時のままで、
濃飛電気が、水力発電の先駆者である福沢氏に相談し、
坂本氏(当時平瀬区長)が住民を説得して、建設した。

平瀬発電所の導水管



三三までの
導水路は、4km
(大臼川より導水)
7.7 / 秒
落差
200
m

発電量 1万1千kwh. 一般世帯34~44軒分。

導水管のある斜面は、タラの芽とマムシがたくさんいる。

4kmの導水路は、正13~15年の2年間で掘り抜いた。
取水口は、大臼川で、春は、除塵に、ヘリコプターで行く。

平瀬発電所白山神社 (通称: 関電神社)



発電所建設当時 安全祈願のために 建立したのが始まり。
昭和45年まで、人が住んで、発電所の仕事をしていたが、今は、
無人。平成4年に、老朽化し、場所を高台よりふもとに
移し、その機に、白山比咩神社が、御分霊した
もの。

平瀬発電所の融雪装置



水の有効利用

発電に使い、終わった水の再利用。

地元の人々は、車の融雪^剤と洗い流すために、

2~3回往復するのに使っている。

しらみずの力



画期的な
取り組み

総工費
1億5430万円

村づくり

人と環境に優しい

平成17年8月に竣工。150kw/h。電気は、しらみずの湯へ供給。残った分は、中部電力へ売電。

平瀬発電所で電気を起こした水が、さしにここで再利用され、再び電気を起こしている。

庄川は、このように、何度も水を再利用し、大切に水を使っている。

タイトル 白山三尊巡礼

No 1

— 御前峰・大汝峰・別山に
鎮座されては仏様 —

- Why なぜ: 登山客の足をとめる。
Where どこで: 白峰地区 (白山本地堂周辺)
Who 誰が: マカ-利用の登山客 (おは 北陸近辺)
What なにを: 白山三尊と白峰地区のまちなみの紹介
When いつ: 夏山期 第3月曜日~8/31
紅葉期 秋分の日~体育の日) 繁忙期
の 日曜日

- How どうやる: ①看板の整備「白山さまの里」
②白山のガイドに白山信仰の歴史を学ぶ
③仏様の絵のある古絵図凡巻山地図の製作。
④マカ-規制のバス等でPRやガイドのビデオ上映
⑤環白山協会のHPでアピール

この部分

↓ ↓
将来「環白山〇〇名所めぐり」

例 〇〇ヶ所で段位

〇〇ヶ所で名人など!!

↑ につなげる

タイトル 白山三尊巡礼

No2

How ように: 「ジギ言葉による楽しいガイドツアー」(1人でOK!!)

内容の部分

予約は白峰観光協会(前日まで)

当日受付は 総湯で申込 (PM12:30まで)

<スケジュール>

PM12:00 総湯でゆっくり入浴

PM13:00 「ヒルマデゴザル」

オープニングトーク00 & 食事
ジギ言葉

PM13:45 ジギ言葉によるガイド

PM15:00 白山本地堂 - 林西寺 - 徳持
- なかひまぢみ - 山岸家

How much: @ 2,500円
いくら

総湯入浴料: 300円	} ガイド料は 820円/人
食事料: 1,000円	
拝館料: 250円	
とち餅: 130円	

白峰の思い出

織りにみツアー

—牛首紬の思いの深さを知る—

● 誰に... ^A 牛首紬の愛用者 (着物愛好者)

^B 雪だるまウオーク来訪者

● どこで... 白峰地内の各施設

● 何を... 白峰の歴史的背景を理解した上で、
牛首紬の織物を体験する。

● いつ... A → 通年いつでも B → 2月の雪だるまウオーク

● どのように... 1日目午後 → ① 白山を知る (国立公園セーフ) ② 本地堂見学 ③ 白山農民俗資料館見学と 語り部の話を聞く。

— 宿泊 — (食事は地元の食坪、温泉)

2日目午前 → 牛首紬の織物体験

昼食 → 堅豆腐、かち^ちなご、白峰定食

● いくら... 1泊2日体験料込みで、^{松崎} ¥12,000

八坂神社で

勝ち抜く人生!!

ご神体の牛頭天王は荒ぶる神
荒ぶる神とは 勝ち抜く神

八坂神社に付加価値をつけることで

地元 → 地域振興. 来る人 → 勝ち組人生を!

プラン1 八坂神社を勝負の神様に売り出す!

どのように? ① **神域づくり** → 鳥居から本殿裏までを神域として
立ち入りを有料とする

② **絵馬見学と本殿拝観で500円**

希望者は玉串奉典も可能 (別料金)

③ **ご利益づくり**

希望校合格. 宝くじ当選.

パチンコ. 競馬. 競輪. 競艇. その他賭け事全般
スポーツ (ボタンク. フィギュアスケート. カーリング. 水泳)

④ **ご利益をシホライズしたものを作る**

絵馬 (合格祈願絵馬. 合格感謝絵馬). お守り
お守り (パチンコ. マーシャンやスケート靴など)

プラン2 大自然に囲まれた合格予備校

どのように?: 予備校と提携 (白峰教室とする)

対象: 受験生 (定員20名)

場所: 現在ある公共施設の空室
望岳苑

期間: 夏休み (10日間~2週間)

費用: 学習料 (提携予備校と協議の上. 決定)

宿泊料 (民宿と協議の上. 実行可能な額とする)

ポイント① **初日に八坂神社で必勝祈願をする!**

参加者に「必勝はちまき」を配布

② **頭のおよくなる山菜料理と清浄な空気**



プラン3 宝くじで喜び人生!

対象：宝くじを売る人、宝くじを買う人

- 方法：
- ① 八坂神社でお抜け済みの宝くじを
白峰郵便局で販売
 - ② 他の地区の宝くじ売り場へ八坂神社が
出張お抜けをする (希望による)
 - ③ 宝くじを買った人は八坂神社でお抜けを
受ける

期間：ジャンボ宝くじ売り出し期間

費用：お志 (一口3,000円以上)
但し出張旅費は別途

※ 当選額を八坂神社境内に掲示

プラン4 八坂神社のブランド作り

方法：各種お守り
トチモチを勝ちモチに
その他

しまいのばんば

「お終まいの広場」と
いう意。



雪崩保安林、水源涵
養林の役割も果た
「お智れ山」。

み毛 (スツル)

除雪用具



白崎村オウジツル。

一生毛。

鍛冶屋土製作。

こしき

除雪取扱説明中

くびれの部分で雪を切る。



林西寺のはしご



アルミのはしごでは
役立たず...

積雪にも曲がることのない栗装(栗材)のはしご。
常設されている。

石垣と土壁



手取川から
上げた石

土壁はこの地方の伝統
的な建築仕様。

石垣、石積りは古い町並
みの意匠となっている。

山岸家の入口

軒先がありません



山岸家は
十八ヶ村の縦庄屋。人の住居
スペースは1階のみで、2〜3階は
養蚕スペース。雪対策のため、主屋根
以外は屋根がない。

山岸家の式台門

60数年=4回



冠婚葬祭の折にのみ開く門。

山岸家の家紋

鬼瓦



ワレ屋根から互屋根ト変わ下こゝから屋根から
下され石鬼瓦

石の土台

どかい一枚岩



長年. 建てていても
家が傾いて来りする
ことはない。

板倉

備えのために



万が一の場合に備えて、建築材を保管している。

味噌倉

食料庫



年貢の食料品などを保管していた。

白峰の街並み

昔ながらの鎧壁



景観保全の取り組みが
行われています。
(改修に補助金)

くれ屋根

最後の一軒



材料は栗材の巾が20~30cm. 長さ50cm. 厚さ2.0
~2.5cm

はふう 破風

屋根を守るための 工夫



クシ屋根が風で吹かれ
て破損するのを防ぐ。

★1回石川景観大賞

周りの景観と

合うように考えて...



郵便局だが、守く建ちあつた
鉄筋コンクリートでなく、
景観に配慮して鐘壁の
建物だ。

山岸家分家

山岸十郎左衛門

二階の玄関

白峰地区の民家の伝統的
建築様式を今に残す。



水屋

昔のままの水路

1700年代に築造。往事口
飲料用水として利用されている。



流雪溝の有効利用

火災時の水利



グレーティングを縦に落とし、その前に板を落とし、水をせきとめ、水たまりをつくり、水を汲み出す。消防水利利用は黄棒で表示。

流雪溝とイワナいけす

みんな
水屋の有効
利用

春風旅館前で。



養蚕の窓



温度を調節する
ために作られた

3階はお蚕様の部屋. お寺で養蚕を営んで
いた。

はふう

破風

瓦屋根にある
破風は飾りもの



街並み景観



外灯を見上げると

雪だるまをモチーフとしたデザインの外灯。

集落全体を統一。

雪だるまの街灯



街の
統一イメージの
灯あかり

平成元年度より始まった雪だるままつりをイメージした街灯。みんなが楽しみにしている雪だるまを一年中楽しめるようにした。平成9~11年にかけて整備された、かわいらしい白峰の顔です。

林西寺の庫り

2006.3.4

(裡)



白峰の特徴ある土蔵つくり
のたたずまい。

太鼓堂



林西寺の
庫裡(クリ)

法事のふか太鼓が集落に響き渡るように、雪に埋れ
ることのない高い位置に太鼓が置かれている

2006 3.9

白山本地堂



白山
 下
 山
 仙
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

簡単な説明

明治の神仏分離の際、白山の山々から
 下りた白山の人々により大切に守られている。

解説

白山本地堂の白山三尊

御前峰

大汝峰

別山



十一面観音菩薩が御前峰、阿彌陀如来が
世

大汝峰、聖観世音菩薩が別山の御本尊

白山本地堂

2006.3.4



る。置 た 下 白
さ 仙 ろ 山
れ が 下 山
て 安 され 山
い

明治の神仏分離の際、白山の山々から下ろされ、白峰の人々によって大切に守られている。

木像三体



泰澄大師座像
薬師如来座像
釈迦如来像

白山の開祖、泰澄大師。健康の山=水の山
白山の薬師如来(薬の神様) 泰澄の自作と伝之なる
釈迦如来像

本堂の阿弥陀さま



200年の年月の重さ

お香の村の汚れ? は / 日ご
拭きとれるが、この風合いかさざる
には200年かかるか? 掃除、しな
いこと。

親鸞上人



真向きの像

別院格卡与之相繪像、これより本堂より
取り出すに可也

襖 ①



筆景泉
じんの
麝香猫園襖

泉景は加賀藩御用達の筆師絵師。

襖 その2



亀図襖

襖 その3



から とくく
村 東旭 筆

末村 因襖
山水

江戸時代後期から末期にかけて活躍した岸派の
画家。

真向きの絵像掛軸入れ



等身大祖聖人御影

おびと
帯戸



ケヤキの太さ

3尺以上の太さのある樺からひいた板。

式台口の戸



来賓出入口

皇族が出入りした場所、儀礼的な場合のみ使用。

なぜ？ 郡上の檜がここには？



「郡上檜」の材が使われている
当時の運搬方法で、どの
ようなルートを通してこの地へ
到着したのか、ロマンを感じず
白峰村と石徹白には
婚姻関係も見られます。

龍の欄間 その1

仏 (仏舎利塔)



仏・法・僧 2/7,

龍の欄間 その2



法(經典)

仙・法・僧の17。1桿之家が1軒建つと
云わね。

龍の欄間 その3



僧(魂)

仏・法・僧の1つ。

柱の太さ



林西寺本堂にある
6本の柱

内陣側の2本の柱は
他の4本より太かった。
(遠近法効果)
?

本山への寄進荷札



荷札の大きさから
思われる荷の大きさ

本山の改修用建築材
を寄進した木札が本山で
見つかった。

寄進札



合計金額
1億34万円
本堂修繕費

強制的ではないけど、半(事実上の)強制。

鐘つき堂



本堂と合わせて
1億3400万円

白峰の氏神様は八坂神社



縁起には
諸説ある

人々は大晦日の夜にお参りする。ご神体は京都・八坂神社と同じ牛頭天王(素盞鳴命)。この本殿の扉は5月3日、9月13日、9月才2土曜日、年末年始にご開帳される。この扉には、「転法輪」と「くろゆり」が刻まれている。

十二神将立像



千支に
ちなんだ
立像

12 軀の神将が神様を護っている

江戸時代のきれいな絵馬



文政5年(1822)本殿が造営された時に奉納された。牛若丸や依藤太のむけで退治などが描かれている。保存状態はよく色も綺麗に残っている。

変わった
絵馬が
16枚ある



彫刻で飾られた本殿



国宝級の
建築様式

永平寺の宮大工の手によるもので、くぎが一本も使われていない。この建築様式は国宝級のもと言われ、文化庁へ文化財の申請をしてみたものの、当時の拝殿がバラック小屋のため申請が却下されたという逸話も残る。

不思議な奉納品



船頭多くして
「いかり」
山に登る

木札には「寄進 加賀市片山津町コ-ホ 白山峰 出村宗治」と書かれている。

河内谷分教場の^日時鐘



電カが
普通化する
前の
タイム

昭和9年の大洪水で流された～校舎ともども流された時鐘。
幸いに間もなく川下から発見された。この鐘のゆがみで、
洪水のすごさがわかります。
(2km下流)

半吉



半吉

半吉は

中吉の

上か下か!?

白山比咩神社と同じおみくじが使われている。
半吉は中吉の上か下か。宮司さんも首をかしげる。
半吉をひきあてた方に幸多からんことを祈って。

永劫山 真成寺



初代のお坊さまが
修業した山

昔のお坊さまは、山で修業しないと
お坊さまになれなかったそうです。お寺
の名の上には修業した山の名が。

行勸寺



白峰で一番古い
杵木造建築

この寺を建てた当時は丸柱が禁止されていたため
角柱が用いられている。

干し大根菜



冬の
保存食

干し方3種

- ① 湯でてから干す
- ② 塩漬けの後、干す
- ③ そのまま干す

} それぞれにより調理法があり
冬の食卓を彩る保存食



背負子と念棒

しよいこ

ねんぼう

40kgの炭もかつぐ”
運搬道具



念棒は歩く時は杖、休む時は
ささえになる二役を持つ。

へいながご



へい
な
とは
白
峰
では
山
も
み
い

山もみじの木の皮を薄くはぎ、かごを編む。痛みやすいところは山桜の皮で補強する。

へいなは、「山もみじ」「うりはだかえて」「いたやかえて」など、地域によって木の種類が異なる

ミノ、ユキワラジ、 カンジキ

これが「あれは」
雪道だつて
怖くはない!!



▲ユキワラジ



▲カンジキ



履き物を固定する紐は、
ミノの木を編んで作ったものを
用いた。こちらは氷点下になると
氷るが、ミノの木は氷点下5-6
度まで凍らないという特質を
活かしたもの

① 民俗資料館 杉原家

2006.3.4



天領時代には
庄屋・組頭も
勤めた旧家

(県指定有形文化財)

1864年に建てられ、江戸中期から明治時代には使用人を30人余りがかえ、山仕事や農耕・養蚕を行っていた。白山3くの豪農の生活ぶりかぶうかがえる。

各種内皮の網

2006.3.4



強度や耐久性
に優れた引き網

シナノキやウリハダカエテなどの内皮を
使って強度や耐久性に優れた網
をつくっていた。牛にマメができてくいな内皮の特殊な
理解していた。

白山く 民俗資料館



山里で生きて
本作り農家の
生きて知恵が
見られます。

白峰地区では古くから 身近にある
ものを無駄なく利用し、又遠くからの
経済交流の一端が 民具からもうかがえます。

杉原家内部

2006.3.4



床の間解体の仕様図

葬儀等、多人数の收容が可能なように床の間が解体され、大きな空間が生れた。

家形
文化財審の表建農の
を勤めた果指定有形
天領時代の庄家、組頭
民俗資料館に存する。

白峰の語りベ

2006.3.4



民俗資料
館の解説
状況

白峰には、自然や歴史・文化
の語りベが多い。

牛首餛飩 白濁 - 糸状の作業者 -



糸状の作業者
白濁の
餛飩

近年において全国的に知られるように
なった牛首餛飩は糸の温くもりと
柔らかな食感と風合いが特徴です。

織りの資料館 白山工房



1000年の歴史を織り込む
「牛首紬」についての資料を
展示している。

経済産業大臣指定伝統的工芸品、石川県指定無形
文化財の牛首紬の生産工程が見られる。
かつての白山の経済基盤がうかがえる。

織り作業場

2006. 3. 4



いよよ織りの 工程に入ります。

※ 特徴的な箱といニ丁杼, によて美しい織り肌の
牛首袖が生まれます。織りには熟練の技術と気の遠く
なるよう根気が必要され、一反の袖が完成するまでには
織りたてで 4~5日が必要です。

釘抜紬の秘密

牛首紬は釘にひかかっても
布が破れず釘が抜ける程
丈夫なことから「釘抜紬」と
言われました。



白峰村の男たちは冬は季節労働者として村を去るならわい
でした。女たちは長い冬の間、恋しい人に思いをよせ牛首紬を
織ったのです。「釘抜紬」の生地**の強さは女たちの思いの**
ための深さに結晶したものです。また製品的には2匹の要の入った玉を中
も使うことから糸が2本より強い
生地が生まれます。

牛首紺 完成品

2006.9.4



牛首紺の一反の
上代は、中上級
公務員の1ヶ月分の
給与相当と言われ
写真の着物で、現在38万円。

牛首紺の持長は、最初はおわわしているが、着るごとに
身体に馴染んで着易く、味わかかると云す。
素材は白峰村の産物らしいと云えす。

糸くり整経場

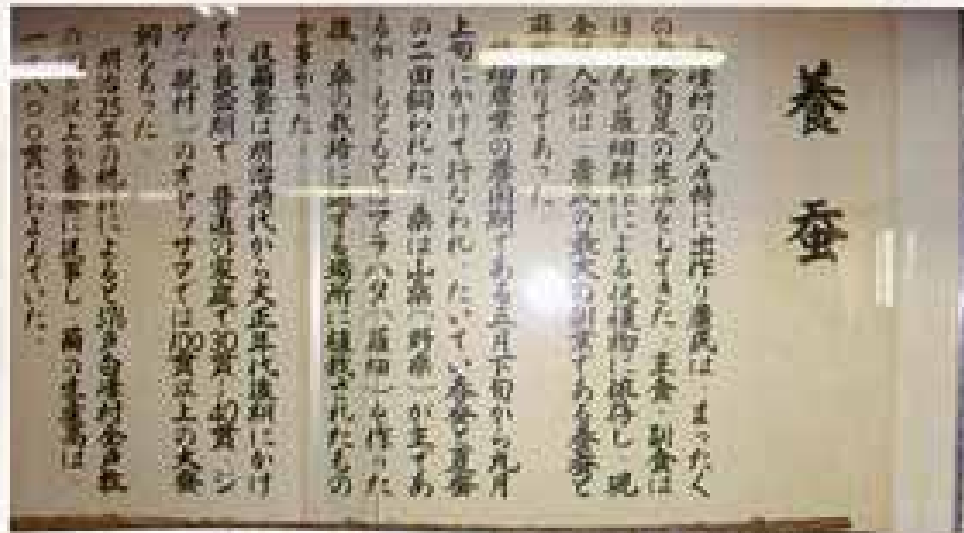
2006.3.4



したから
織りの下拵え
とよる作業場

精練. 染色された糸は. 織りの種類に応じて.
経糸は. 「へだり」によって長さ. 本数が整えられ
千切に巻きます。

蚕の養蚕



亦から自給自足の
生活の中で養蚕は
地域の経済の中心
でした。

それゆえに、住居の
上部は蚕の生産の

為の作業場として
利用されていまして、

